



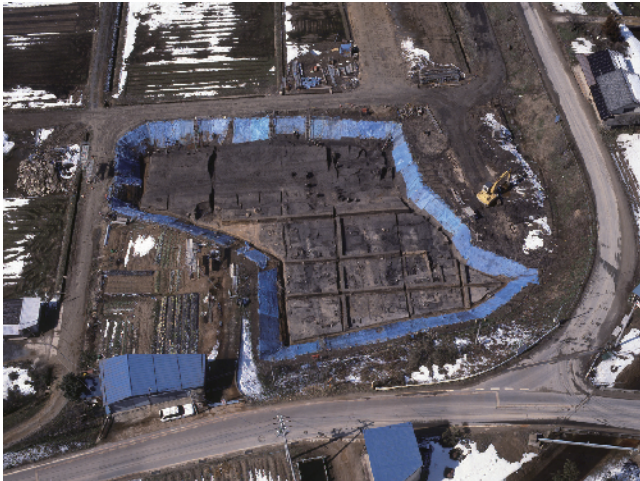
豊岡市立歴史博物館 ニュース

—但馬国府・国分寺館—

2021.3 第60号

豊岡市立歴史博物館
—但馬国府・国分寺館—

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祿布 808
TEL 0796-42-6111 fax 0796-42-6112
http://www3.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/



みやうちほりわき
宮内堀脇遺跡 (兵庫県立考古博物館提供)



このすみやま
此隅山城跡



ありとやま
有子山城跡



出石城跡

第51回企画展

豊岡と戦国大名

15～16世紀、応仁の乱などを機に世情が不安定化し、室町幕府は権威を失いました。それにより、個性際立つ戦国大名たちが日本各地で次々と現れ、自らの領地を拡大するため争ったこの時代を「戦国時代」といいます。豊岡でも、有力な大名勢力の影響により支配者が次々と変わり、山名氏を始め多くの大名がこの地を治めてきました。支配者の交代は豊岡の文化にも影響をあたえ、それを表す多種多様

な資料が残っています。今回の企画展では、それぞれの大名と豊岡のかかわりを、考古資料・古文書などから紹介します。

- 会 期 2021年3月13日(土)～7月20日(火)
- 展示協力 出石皿そば協同組合 出石史料館
岡田章一氏 佐藤 誠氏 菱田淳子氏
兵庫県立考古博物館 松井良祐氏 森垣 剛氏

山名氏の時代

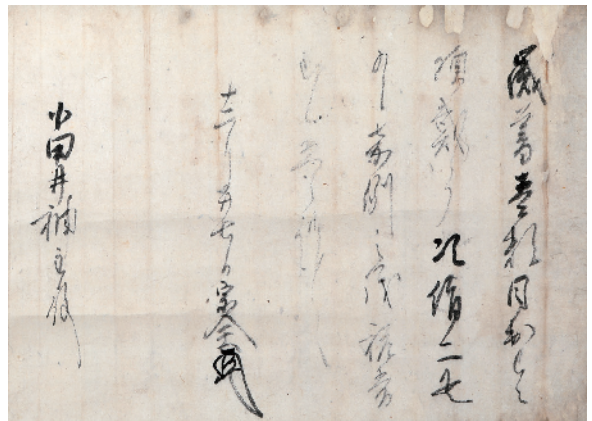
室町時代、但馬国は守護大名の山名氏が治めていました。山名氏は上野国にルーツをもつ氏族で、1372（応安5・文中元）年に、山名師義が但馬守護に任命されました。

室町幕府では四職とよばれる4つの有力武家の一つで、京都の警備や刑事裁判を司る侍所の所司（長官）を代々務めていました。全盛期には、一族で日本全国66カ国中、11カ国を治め「六分の一殿」とも呼ばれた山名一族の本家が、但馬山名氏でした。1391（元中8）年に山名一族の内紛である明德の乱が起き、一時幕府での勢力を弱めましたが、山名持豊（宗全）の時代にその勢力を盛り返し、応仁の乱では西軍の大将となりました。

山名氏の守護所（領国で政務を行った屋敷）は、現在の豊岡市九日市（フレッシュバザール付近）と推定され、「御屋敷」という字名が残っています。また、持豊の孫である政豊、もしくはその子である致豊の時代に此隅山城の麓へ守護所が移され、そこにも「御屋敷」という字名が残っています。

但馬国全体は守護大名として山名氏が治めていましたが、各地域は田結庄氏、垣屋氏、八木氏、太田垣氏など在地の有力な国人領主が統治していました。

応仁の乱が起こるまでの豊岡は、山名氏の権力によって比較的穏やかな時代でした。



山名宗全書状（小田井神社文書）



宮内堀脇遺跡出土土器（兵庫県立考古博物館提供）

織田信長の時代

桶狭間の戦い以降、勢いを増す織田信長は1569（永禄12）年、西国の雄・毛利氏の要請を受け、但馬に家臣・木下藤吉郎（のちの羽柴秀吉）を派遣し、山名祐豊の居城・此隅山城を含む但馬の18城を落城させました。このため城主の祐豊は堺に逃げますが、間もなく信長から許しを得て但馬へ帰還し、1574（天正2）年、出石に有子山城を築城し新たな居城としました。

その後、天下統一を狙う信長は毛利氏と対立するようになります。但馬では毛利方と織田方それぞれに属する国人領主たちの対立が激しくなり、1575（天正3）年には轟城主・垣屋豊統（毛利方）と鶴城主・田結庄是義（織田方）による野田合戦が起こりました。また1578（天正6）年にも豊統など毛利方の抵抗で宵田城・水生古城の戦いが起こりますが、祐豊はどちらにつくのか態度をはっきりさせないまま、ついに1580（天正8）年、羽柴秀吉の弟、羽柴秀長により攻められ、有子山城は落城します。

この時期、豊岡の地は東の織田氏と西の毛利氏という大きな勢力に挟まれ、両者の代理戦争という形で主戦場となりました。但馬国内が最も混乱していた時代といえます。

但馬山名氏最後の当主、山名祐豊

山名宗全の玄孫にあたる祐豊の時代、かつて但馬国守護であった山名氏本家の権威は衰え、実質的な領地は出石郡のみとなっていました。祐豊は此隅山城を本拠としていましたが、秀吉の侵攻を受け落城します。その後、和泉国堺に逃れましたが、豪商・今井宗久の仲介で、信長に出石郡の支配を許され、有子山城を築き拠点としました。その後、毛利氏と織田氏の勢力争いが続くなか、1580年に有子山城は落城し、高齢で病床にあった祐豊は落城から5日後に死去しました。

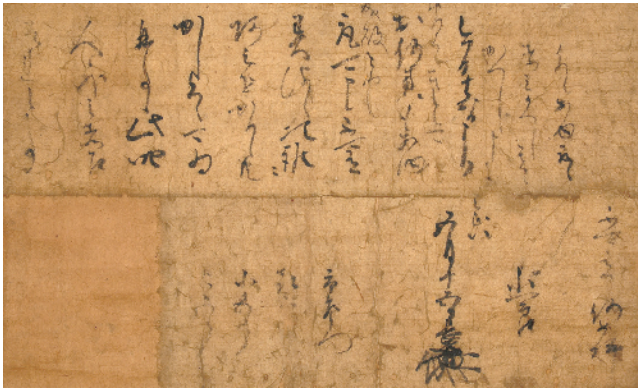
豊臣秀吉の時代

秀長によって有子山城が落城して以降、豊岡の地は信長政権に組み込まれ、室町時代から長く続いた守護・山名氏の支配がここで終わりました。有子山城には秀長がそのまま城主として入り、豊岡では、同じく織田の武将・宮部継潤が、神武山の木崎（城崎）城に入り「豊岡城」と名前を改めました。出石と豊岡それぞれの城下町の基礎が出来上がった時代といえます。

一方信長は、1582（天正10）年に天目山の戦いで甲斐の武田氏を滅ぼし、この時点でほぼ天下を統一していました。しかし、その年の6月、滞在していた京都・本能寺で家臣・明智光秀の謀反を受け、自刃します。

中国攻めで岡山にいた秀吉は、この訃報を聞き、対峙中の毛利氏と和議をまとめて京都へ引き返し、山崎での合戦で光秀に勝利、以降、信長の後継者としての道を歩みはじめます。翌年の賤ヶ岳の戦いで柴田勝家との織田家後継者争いに勝ち、さらに1584（天正12）年には信長の同盟者、徳川家康と小牧・長久手の戦いで対峙しますが、和睦が成立し、徳川家も何とか傘下に収めます。1585（天正13）年に紀州攻め、四国攻め、1586（天正14）年に九州攻めと、各地の大名と在地の勢力を服従させ、1590（天正18）年には小田原の北条氏を滅ぼして、ついに天下統一を成し遂げました。

戦の後、秀吉は各武将の功績に応じて大名の配置換えをします。自らの居城、大坂城とその周囲には防備を固めるため、豊臣氏の息のかかった大名を配置しました。出石の有子山城には前野長康、豊岡城には尾藤知宣や明石則実と、古くからの家臣を城主に任じました。



羽柴秀長鮎漁免状



有子山城遺物（左上：丸瓦／右下：備前焼播鉢）

出石藩仙石家初代、仙石秀久

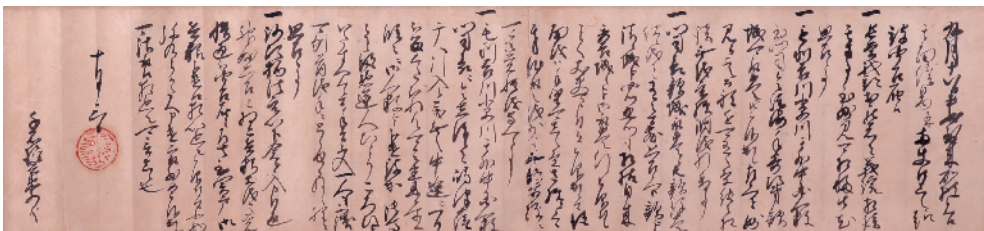
通称は「権兵衛」。秀吉の旧臣で、容貌の勇壮さを信長に認められ、秀吉の配下となったとされています。1583年、それまでの功績を評価され淡路5万石の大名となり、四国攻めのあとには讃岐一国を与えられ、大きな出世を遂げました。九州の島津攻めで敗走し、領地を没収のうえ追放されますが、1590年の小田原攻めにかけて、小田原城虎口の一つを落とすなど功をあげ、信州小諸の大名として再び咲きました。



金団扇（写）



伝仙石秀久所用具足



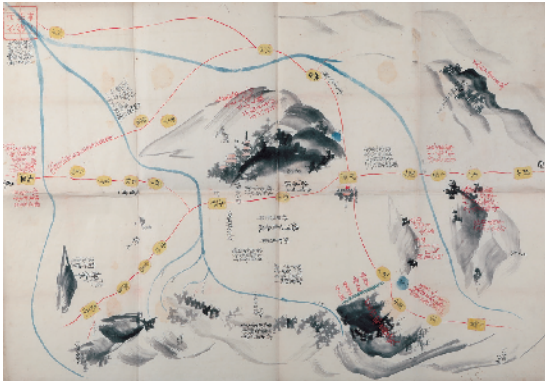
仙石秀久宛豊臣秀吉朱印状

徳川家康の時代

長く続いた戦国時代を終わらせたのは、徳川家康でした。秀吉の死後、大名の中で最高の官位を朝廷から与えられていた家康は、政務をとりしきる五大老の筆頭とみなされるようになります。さらには秀吉により禁止されていた大名家同士の婚姻を行い、縁戚となることで自身に味方する大名勢力を広げていきました。豊臣政権をないがしろにした家康の行動は、秀吉の恩を受けた石田三成らの反感を買い、両陣営の対立を生みます。そして1600（慶長5）年、挙兵した三成と家康は美濃の関ヶ原で対峙し、東軍を率いる家康が西軍の三成を破り、天下人への地盤を固めました。出石城主・小出吉政は秀吉の従弟、豊岡城主・杉原長房は秀吉の妻・北政所の従弟にあたるため、関ヶ原では両者とも西軍につき、丹後田辺城の細川幽齋を攻めました。

1603（慶長8）年、家康は武家の棟梁の証である征夷大將軍に任じられ、以後260年続く徳川幕府の時代が始まりました。しかし大坂城には一大名となった豊臣秀頼がおり、徳川家を頂点とした安定した政権を目指す家康にとって、依然として別格の扱いをされる豊臣家は邪魔な存在でした。そして2回にわたる大坂の陣（1614年 冬の陣・1615年 夏の陣）を引き起こし、豊臣家を滅亡させました。

江戸時代になり、出石では小出吉政・吉英親子が現在のような出石城と城下町を整備し、豊岡では杉原長房が円山川を改修するなど、大名により領内の安定が図られ、太平の世に向かっていくことになります。



関ヶ原布陣図



出石城築城の際、小出氏によって埋められたと考えられる石垣

おわりに

戦国時代は漫画やメディアに取り上げられることが多く、日本史の中でも人気のある時代です。その多くは織田信長や、武田信玄、伊達政宗など全国的に有名な武将を中心としたもので、各地域ごとにスポットが当たることはほとんどありません。今回の企画展で、多くの武将が活躍した戦国時代、豊岡では何が起こっていたのか、有名な武将とどう関わりがあったのかを知っていただくことで、ふるさとの歴史を大切にすきっかけとなれば幸いです。

お知らせ

■展示解説

日 時：5月8日（土）[1部] 10時00分～
[2部] 13時30分～

場 所：豊岡市立歴史博物館 企画展示室

解説者：西谷 昭彦（当館学芸員）

定 員：各回9名（要予約）

申込先：0796-42-6111 ※解説聴講には入館料が必要です。

■講演会「戦国大名とは何か？」

日 時：6月12日（土）13時30分～

会 場：日高農村環境改善センター 多目的ホール

講 師：西谷 昭彦（当館学芸員）

定 員：先着40名（要予約）

申込先：0796-42-6111

ご利用案内

■開館時間 午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）

■休 館 日 水曜日（5/5（水）は開館し、5/6（木）を休館とします。）
年末年始（12月28日～1月4日）

■入 館 料 一 般 500（400）円
学 生 300（240）円
小中学生 250（200）円

*（ ）は20名様以上の団体料金
* 県内小中学生は無料（ココロカードを提示してください）
* 障害者手帳をお持ちの方は半額

■ 最新情報はホームページをご覧ください。
<http://www3.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>

■ facebook ページ公開中！
<http://www.facebook.com/tajima.kokubunjikan>

